



## HIV感染者の長期療養体制整備のための 療養施設受け入れ実態調査

研究分担者 本田 美和子

(独)国立病院機構東京医療センター 高齢者ケア研究室室長

### 研究要旨

強力な抗レトロウイルス治療薬により、HIV感染者の予後は飛躍的に改善している。しかしその一方で、身体障害・認知機能低下等が残存し、また悪性腫瘍や生活習慣病の合併などによって、地域での生活が一人では困難な状況にある者の数も増加している。HIV感染者が生活の場として地域および長期療養施設で過ごすことについては、まだ数多くの障壁があり、急性期・亜急性期医療機関が長期療養の場としての役割も果たさざるを得ない状況が続いている。薬害エイズの被害者の長期療養の問題は深刻であり、患者の高齢化が進む中で緊急対策の実施が求められている。本研究はHIV感染者の地域や長期療養施設への受け入れを困難としている要因について明らかにし、地域包括ケアが重要となる長期療養においてその問題解決のための提言を行なうことを目的とする。

#### A. 研究目的

HIV感染者を受け入れた長期療養施設で、受け入れ時に検討された論点を明らかにし、受け入れ後に生じた問題を抽出することを目的とした。

#### B. 研究方法

HIV感染者受け入れ経験をもつ医療機関、施設、事業所の職員を対象とした半構造化インタビュー調査を実施。

#### 対象

エイズ治療ブロック・中核・拠点病院から症状が安定したHIV患者を受け入れた長期療養施設の医療連携窓口担当者。

#### デザイン

retrospective qualitative study （後方視質的研究）

#### 評価項目

主要アウトカム：HIV感染者受け入れ可否の要素  
副次アウトカム  
感染者受け入れ後の状況記述

#### （倫理面への配慮）

本研究はHIV感染者の長期療養について、エイズ治療ブロック・中核拠点病院から患者を受け入れた長期療養施設の連携担当者を対象とし、長期療養施設へ患者を紹介した当該拠点病院は、本研究への協力に関して本研究計画の倫理審査を行なった。患者を受け入れた長期療養施設の施設長に協力依頼を行い、当該施設の医療連携担当者を研究対象者として研究参加同意を取得した。研究対象者からは、受け入れ患者の性別・年代層・血友病の有無・介護度と、施設受け入れ時に検討された論点、受け入れ後に生じた問題を聴取したが、本研究目的以外には利用しない。連携担当者の同意取得後に、当該HIV感染者の属性を取得したが、個人情報保護の観点から当研究事務局が保有するのは性別・年代層・血友病の有無・介護度情報のみで個人の特定はできない。

#### C. 研究結果

平成29年度は13施設で調査を実施。

内訳は医療機関3施設（回復期リハビリテーション病棟2施設、療養型病棟2施設）、施設8施設（特別養護老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム）、訪問看護ステーション2施設である。

#### D. 考察

受け入れ検討においては大きく分けてHIV感染症を問題視していないこと、職員に対応経験があること、知識等の不足から意識的に捉えていなかったことに分類された。管理者の考え方や運営方針、過去の経験の影響は大きかった。

HIV感染者の受け入れを理由に職員が辞職した施設も複数あったこと、知識不足や不安に対して、直接ケアに接する現場の職員を対象とした不安軽減への取り組みや合意形成などの組織全体のチームワークおよび教育の重要性が示唆された。拠点病院と連携した個別研修や継続的なバックアップ体制が有効であった。

受け入れ後はHIV感染症が問題となった施設はなく、全ての施設において2人目以降の受け入れは可能であった。対応に苦慮した要素は家族関係、精神症状などHIV感染症と直接関連のないものであった。一方で受け入れによる運営コストの上昇など経営面での課題が生じていることが明らかになった。

HIV感染者の長期療養の問題は、高齢者の長期療養での課題と共通しており、個々の状況や制度の活用度など複合的要素が混在している。質の高いケアの提供を受け、生活の質を保ちながら生活するためのシステム作りが必要である。

#### E. 結論

HIV感染者の受け入れあたっての施設側へ対する支援が必要である。

受け入れによる風評被害への心配や受け入れにおける不安を施設側は抱えている。拠点病院における支援とともに、施設同士の情報交換や研修等の場も有効であると考えられる。

HIV感染者の受け入れによってコスト負担が生じることは運営に直結し、受け入れを考えるうえでの課題となる。施設側のコスト負担に対する保障、仕組みがあることで受け入れにつながる施設は増えると思われる。

紹介元の拠点病院から遠距離の施設へ入居することも少なくない。ブロック/中核各拠点病院だけでなく、各地域における拠点病院機能は施設側を継続的なバックアップするうえで重要になると考えられ、体制整備が求められる。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

- 1) 小笠原太、津々見瑞恵、福長暖奈、本田美和子：HIV陽性者の長期療養体制整備に求められる課題の抽出と分析 第31回日本エイズ学会学術集会・総会、2017. 11. 24、東京

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし